

【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

立樹たち六年二組は、三月のお別れ会で創作劇『リアルシンデレラ』を上演して好評を博した。本文は、劇が終わり片づけを始めた場面である。

「いやー、盛り上がったなあ。」

「うちの親、ちゃんと撮ってくれたかなあ。」

みんな、ほつたを紅潮させて、ステージ上の大道具と小道具を家庭科室に運んでいく。

忘れ物がないかを点検していた立樹は、上手の楽屋の床に、だれかがうずくまっているのを見つけた。

「おい、どうしたんだよ。」

音羽だった。立樹が声をかけると、彼女はこちらへ目も向けずにハンカチで顔をふいている。すん、すん、とすすり泣きが聞こえた。

「ごめん、本当にごめんね。」

「なんだよ、どうしたんだよ。」

立樹がたずねると、音羽は背中を丸めたまま、つぶやいた。

「あたし……あんな大失敗しちゃって。」

「ああ、なんだ、あのことか。」

「忘れたふりしてくれなくていいよ。」

「ふりじゃないんだ。ほら、最後盛り上がったし。あの瞬間はびびったけど、結果、うまくいったし。」

最後の拍手がすぎすぎて、その前のハプニングの印象はすっかりうすれてしまった。でも、立樹がそう思っても、音羽は同意できないらかった。

「あんなひどいミス。あたしは一生忘れない。」

「ミスっていうなら、三組のやつらがCD片づけなかったのもミスだし。」

「でも。」

「照明と音楽、音羽一人でやるのは大変だって、わかってるし。」

「リハーサルではうまくいったのに……。あたし、お芝居を台なしにしちゃった。」

立樹はため息をついた。どうなぐさめたらいいんだろう。少しはなれたところからようすを見ていた慶司を、立樹は手招きして、

「なんかいつてやつてくれよ。」

とささやいた。彼はうなずいた。

「あのさ、音羽。芝居っていうのは、生モノなんだよ。」

「生モノ？」

「プロの劇団でも、有名な俳優たちでも、たいてい毎日、なんか失敗をやらかす。」

「え、でも——。」

「セリフを忘れた。小道具がこわれちゃった。セットが動かない。音楽のテンポがずれた。そんなの当たり前。」

「うそ……。」

「だって、生身の人間がやつてるんだからさ。」

「そうだけど。」

「そういう失敗もふくめて、芝居っていうのはおもしろいんだよ。明日、もしもう一度上演したら、またちがう『リアルシンデレラ』になってる。だからオレは芝居が好きなんだ。」

「ありがと。慶司って、意外とお芝居のこと、よく知ってるんだね。」

音羽にいわれて、慶司はふふつと笑って立樹に目配せして、

「オレ、これ運ぶよ。」

と、丸めた模造紙の束をかかえて体育館を出ていった。

音羽はようやくなみだをふいて立ち上がった。

「あたしも、なんか運ぶよ。」

楽屋のすみに置いてあった段ボールを音羽にたのんで、立樹はステージの裏側を点検した。もう忘れ物はないようだ。舞台を下りて、わきのとびらからフロアに出ると、

「よかったぞ、すく。」

と、声が聞こえた。山口さんだった。保護者ではないけれど、いろいろお世話になったから、担任の池辺先生が招待してくれていたのだ。

「ほんとですか？」

立樹は体じゅうの血が、ステージに立っていたときのように再び勢いよく

A

流れだしているのを感じていた。ぼっぼとほてって

くる。

「山口さんの劇みたいなのに、かつこいいダンスとか、プロっぽいしやべり方とか、そういうのはできなかったけど……。」

「そりや、うまくなるのは大事だよ。オレたちも日々練習してる。でも、うまくなることは、二番目に大事なことなんだ。一番じゃない。」

「え、じゃあ一番は——。」

「もうわかってるだろ。」

にやつと笑って山口さんは続けた。

「伝えたいメッセージを、届けること。」

④ 立樹は、体温が一気に三度くらい下がったような気がした。

「オレらは結局、そこんところをちゃんと考えないで、やっちゃって……。」

「なにいつてんだよ。」

山口さんがぼかんと口を開けた。背が高いだけに口も大きくて、野球のボールが **B** 入りそうだ。

「え？」

「きみら、登場人物の気持ちをいっぱい考えたから、ああいうストーリーにしたんだろ？」

「そうだけど……。」

「伝わってきたぜ。人の気持ちを考えると、今まで見えてなかったことが見えてくる、つて。」

「あ！」

立樹は目を **C** またたかせた。

「そっか！ オレらはそれを伝えなかったんだ！」

⑤ ハハ、と山口さんが笑ったので、立樹はぎゅつと背中を丸めた。

「自分たちの伝えなかったメッセージを、観た人に教えてもらおう、つて変ですよね。」

⑥ 「いいんじゃないか？ 作品はひとり歩きするものだから。」

「そうなんですか？」

「いっぱい考えて作った芝居は、観た人に必ずなにかを残すよ。」

わかったような、まだよくわからないような。難しい。お芝居はまだまだ難しい。もっと山口さんに教えてもらいたいと思った。

「あの一！」

「ん？」

「また劇団に遊びに行ってもいいですか。」

「ああ、いつでも来いよ。」

「ありがとうございます。」

山口さんは、大きな手をふって体育館を出ていった。

見送った立樹は、家庭科室にもどった。体育館から引き上げてきた大道具と小道具があちこちに積みあげられている。着がえたあと、これを教室にみんな運ぼう。卒業式まで捨てずにとっておいて、毎日ながめていたい、などといったら、先生はヘンな顔をするだろうか。

(『劇団六年二組』 吉野万理子)

問一 線部 a 「案屋」と同じ種類の読み方をしている熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 昼寝 イ 毛糸 ウ 新芽 エ 討論 オ 安物

問二 線部 b 「まま」と同じ意味用法のものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 道具を思いのままだにあやつる。
イ テレビをつけたまま眠ってしまう。
ウ 足の向くままに散歩する。
エ ありのままの姿を見せる。
オ わがまま放題の態度をとる。

問三 **A** **C** に入ることばとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しはしば イ ばさばさ ウ ぐるぐる エ まるまる オ つるつる

問四 線部 ① 「大失敗」とありますが、どのようなことだったと考えられますか。会話から想像して二十字以内で答えなさい。

問五 — 線部②「ああ、なんだ、あのことか」とありますが、この言い方から「あのこと」に対して立樹はどのような思いを持っていることがわかりますか。その思いを表している一文を本文中からさがし、初めの五字をぬき出して答えなさい。

問六 — 線部③「芝居ってというのは、生モノなんだよ」について、Ⅰ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 使われている表現技法は何ですか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 隠喩 ウ 直喩 エ 倒置法 オ 省略法

Ⅱ 慶司が一番伝えたかったことは何ですか。本文中のことばを使って「……ということ。」に続く形で、十五字で答えなさい。

問七 — 線部④「立樹は、体温が一気に三度くらい下がったような気がした」とありますが、その理由を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一番大切なことを自分が忘れていたことに気づかされてしまったから。

イ まったく思いつかなかったことを今さら言われて落ちこんだから。

ウ 終わってから教えてくれたことを意地悪だと感じて残念に思ったから。

エ 一人前の役者になった気分で浮かれていたのをしかられたと思ったから。

オ 信じていた人の裏の顔を知って芝居に対する情熱が冷めてしまったから。

問八 — 線部⑤「自分たちの伝えたかったメッセージ」は、どういうことでしたか。「……ということ。」に続く形で本文中からぬき出して答えなさい。

問九 — 線部⑥「作品はひとり歩きする」とはどういうことですか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一度舞台上で上演された作品は、観た人が自分の好きなように改変してかまわないということ。

イ よい作品であるほど、その作品は宣伝などしなくても口コミで広がっていく力を持つということ。

ウ 作品は、作者の思いと関係なく受け取り手によって解釈されることによって完成するということ。

エ 発表された作品は、観た人の心に残りさまざまに形を変えて育っていくものであるということ。

オ 演劇の作品は、心をこめて作れば発表者が何も考えていなくても観る人を満足させるということ。

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

君たちは「一生なんてどうせ一回きりだ」と思っているかもしれないが、「生物の時間は繰り返す」と考えてみたらどうだろう。

生物の時間とは、心臓がドキドキ打つ、呼吸を繰り返すといった「繰り返しの時間」だ。固体の寿命とは、親が生まれて死んで、子が生まれて死んで、孫が生まれて死ぬという世代交代の時間である。同じ状況に繰り返すから、回っていると言ってもいい。生物の時間は「一回転の時間」なのだ。それに対してまっすぐ流れていくのが物理の時間だ。

※ 時間は回るのか、それともまっすぐか？ 昔から人間は二つの見方を持っていた。時間が回ると考える民族はマヤや古代ギリシャ、インドがある。日本もやはり回る時間の中で生きてきた。

それに対して直線的な時間観を持つ代表的な存在はキリスト教徒。キリスト教では、神様がこの世を作ったときから世の終末まで一直線に、ソウがいようがネズミがいようが関係なく、神様の時間が流れていく。この時間の見方がニュートンを介して古典物理学に入っていた。(中略)

①では、なぜ生物の時間は回ると私が考えるのか。

地球の歴史は、四六億年、生命の歴史は三八億年と言われている。地球ができて間もないころからずっと生物は絶滅することなく続いている。だから生物は続くようにできている、回って続いているのが生物なのだと考えてよいと思う。

私たちの体は非常に複雑にできている精密な構造物だ。これをどうすれば維持できる？ ②例えば、永遠に建ち続けられる建物はどう建てたらいいい？

一番簡単なのは、絶対に壊れない建物をつくること。しかしこれは不可能だ。かたちあるものはときがたてば絶対に壊れる。物理学には熱力学の第二法則というものがあり、ときがたてば秩序あるものは必ず無秩序になっていくのだ。永遠に続く建物は、絶対に壊れないようにするというやり方では建てられない。

壊れてきたら直せばいいという考えもある。③現存する世界文化遺産は大抵そういうふうになっている。法隆寺がそうだが、新しい部分と古い部分がごちゃになっていいるのだから、③腫れ物に触るようになって、遺産というかたちで保存するしかない。現役でバリバリ働けるといいうものでもない。

では、働き続けられる建物をどうすれば建てられるのか？ その答えは伊勢神宮だ。

伊勢神宮は式年遷宮といって二〇年ごとにまったく同じものを建て替えてしまう。持統天皇以来、一三〇〇年続いているが、今も現役

で機能している。これほど長い年月機能し続ける建物は世界でほかにない。まったく同じものを建て替えて続けていくというやり方は、とても賢い方法だ。

しかし、伊勢神宮は世界文化遺産に指定されない。A、西洋人いわく「これはたかだか一五年しかたっていないから」。B、日本人の感覚からすれば「回っているから一〇〇〇年続いているのだ」となる。これは時間に対する見方の違いだ^④と思う。そして、生物は伊勢神宮方式だ。

生物は現役で働いている。体は使っていれば擦り切れるものだから、年を経るとうまく働かなくなるし、直しても支障が出てくる。だったらアンチエイジングとかなんとか言っただけで済ませず、古くなったらさっさと捨てて、まったく同じものをつくらなければいい。それが「子どもをつくる」ということなのだ。そうして世代交代しながら人類は五〇〇万年続いているし、生物全体としては三十八億年続いている。私たちは永遠に生きることができないけれど、子どもというかたちで自分とそっくり同じ私を次の世代につくることはできる。子どもは私、孫は私。そうやってずっと続いていくのが生物というものなのだ。

もちろん子どもをつくるとき、つまり時間を元に戻してリセットするときには大きなエネルギーがいる。速く回れば回るほどエネルギーを使うので、時間の速度とエネルギー消費量はC関係になる。これは世代交代に限った話ではない。筋肉の収縮をはじめとして体の中のいろんな生体反応においては、働けば壊れるから、エネルギーを注ぎ込んで治してまた働くようにしている。生物の時間は回るのがなのだ。

時間をまったく進むものと考えれば、私たちの一生は一回きりだ。とすればD「という感覚になる。つまり、今の私がよければ、次世代の私が赤字国債で苦しもうが地球環境が悪くなつて苦しみうとも「知ったこっちゃやない」となる。しかし、実は子どもというかたちで私が残る、孫というかたちで私が残る。生物はずっと続いていくのだ。^⑤残念ながら、^⑥そういう感覚が今の日本人からは抜け落ちてしまっている。

（『何のために「学ぶ」のか』 本川 達雄 「生物学を学ぶ意義」）

注 国債 Ⅱ ここでは、国が財政上の理由で、国民からお金を借りて集めることを言う。

問一 ― 線部①「なぜ生物の時間は回ると私が考えるのか」とありますが、その理由として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 生物が昔から同じ姿のまま変わらないから。
- イ 生物が物理的な時間とはまったく無関係だから。
- ウ 生物が地球上で長い間生存し続けているから。
- エ 生物が一日の時間の変化に合わせて生きているから。
- オ 生物が毎日同じような時間を過ごしているから。

問二 ― 線部②「永遠に建ち続けられる建物はどう建てたらいい？」について、次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 「永遠に建ち続けられる建物」とは、何について説明するための例ですか。次の中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 絶対にくずれることのない文明
- イ 変わらずに残っていく記憶^{きおく}
- ウ 頑丈で壊れることのない生物^{がんじょう}
- エ いつもと変わらない日常の生活
- オ ずっと残り続けられる私たちの体

Ⅱ 「永遠に建ち続けられる建物はどう建てたらいい？」という問いに対する筆者の考える答えとして、適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 絶対に壊れないようにすればいい。
- イ もしも壊れてきたら直せばいい。
- ウ 遺産というかたちで保存すればいい。
- エ 同じものを建て替えていけばいい。
- オ 無理にでも使い続けられればいい。

問三 — 線部③「腫れ物に触る」とありますが、このことばの意味として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア おそろおそろ取りあつかう。
- イ 見つからないように行う。
- ウ 悪い部分を取り除く。
- エ よいところを生かしていく。
- オ 多少のことはがまんする。

問四 A・B に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア つまり イ けれども ウ また エ なぜなら オ したがって

問五 — 線部④「時間に対する見方の違い」とありますが、それはどのような違いですか。次の文の空らんに入ることばを、本文中の※の段落から十七字でぬき出しなさい。〔。〕や〔、〕も字数に入れます。〕

「
」という違い。

問六 — 線部⑤「伊勢神宮方式」とありますが、これを具体的に説明している部分を、これよりあとの本文中から三十字以上三十五字以内でさがし、その初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問七 C に入ることばとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 無 イ 主従 ウ 比例 エ 前後 オ 事実

問八 D に入ることばとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア これからどうしよう
- イ 死んだら後は知らない
- ウ 何をやっても無駄だ
- エ 人生を大切にしよう
- オ 永遠に生きたい

問九 — 線部⑥「そういう感覚が今の日本人からは抜け落ちてしまっている」とありますが、この部分に関して次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

- Ⅰ 「そういう感覚」とは、どのような感覚ですか。二十字以内で答えなさい。
- Ⅱ 「そういう感覚が今の日本人からは抜け落ちてしまっている」とありますが、私たちはこれからどうしていかなければいけないと言えますか。「次世代」「自分」ということばを必ず使って、次の文の空らんのことばを十字以上二十字以内で当てはめて答えなさい。

「
」と考えていかなければいけない。

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑩の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 外国人にミチジュンを開かれる。 | ⑥ 手際よく作業を進める。 |
| ② 立方体のタイセキを求める。 | ⑦ それは机上の空論だ。 |
| ③ チームメイトの期待にコタえる。 | ⑧ あの人は律儀な人だ。 |
| ④ ホウフな資源を活用する。 | ⑨ 最寄りの駅まで歩く。 |
| ⑤ 思考のカテイを大切にする。 | ⑩ 適切に句読点をつける。 |

問二 次の①・②の対義語を答えなさい。

- | |
|------|
| ① 勝利 |
| ② 消費 |

問三 次の①～④の慣用句の中で、誤りがあるものはその部分を正しく直しなさい。正しいものは解答らんにも書きなさい。

- | |
|--------------|
| ① 河童の川下り |
| ② 火に水を注ぐ |
| ③ 待てば海路の日和あり |
| ④ 青菜に酢 |

受験番号

氏 名

得 点

問一							
問二							
問三	<table border="1"> <tr> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>	A		B		C	
A							
B							
C							

問四

問五

[illegible]

問七

問八

ということ。

問九

問一

--

問二

I
II

問三

--

問四

A
B

問五

という違い。

[illegible][illegible]

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
り	
⑩	⑤

問二

①	
②	
③	
④	